



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成29年度 研究主任研修会

期日：平成29年5月9日（火）実施

「校内研修とカリキュラム・マネジメント」講師：千葉大学 天笠 茂 特任教授

カリキュラム・マネジメントの定義

各学校において、教育課程を核に各教科等の教育内容の組織化などを図り、経営資源の投入や協働を促すなど、諸条件の効果的な活用を通して、学校教育目標の実現をめざす営み 「教育時評」第41号（平成29年）

カリキュラム・マネジメントの三つの側面 〈答申からのポイント〉

- ① 学校の教育目標を踏まえた**教科横断的な視点**で
- ② 教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る**一連のPDCAサイクルを確立**すること
- ③ **人的・物的資源等を、効果的に組み合わせる**こと

〈グループ協議のテーマ〉
カリキュラム・マネジメントについて
校内でどのように研修していくか

国語科の単元「おくのほそ道」で「自分たちの心に残る場所」をテーマに、俳句や俳文で表現する授業を行った。それをポスターにするために、パワーポイントを作る力（技術科）や構図をとる力（美術科）等、他教科で育成する力が必要であった。単元をうまく構成することで、教師同士にお得感があり、何よりも子どもたちに返っていくものができるのではないかと。



今回の改訂は、
授業と学校の一体的改善である！



- ・ 新学習指導要領は、**育成すべき資質・能力の観点で整理**された。
- ・ 「本時の授業」を“**単元**”で考える。

おすすめしたいこと

- ・ 内容配列であった**単元配列表**を、「資質・能力」の視点で書き加える。そのプロセス自体が、カリキュラム・マネジメントの**教科横断**という視点を豊かにしていく。
- ・ 教科の枠を超えて、**単元間に矢印や関係の線を引いてみる**。その線の引き方・関連の付け方・関連の見方自体がポイントになってくる。
- ・ 「**深い学び**」とは何かを、互いに授業を参観し合いながら話し合う。
- ・ **単元ごと**と**又は学期ごと**に振り返るようにする。
- ・ 本年度は、新学習指導要領の「**周知・徹底**」の年になるので、**情報収集を大切に**する。

言語能力の育成を図るために、国語科を核として授業研究をし、他教科や他領域等いろいろな場面でつなごうと意識して取り組んでいる。単元計画をつくるときも、他教科とのつながりをポイントに、学習指導案に書き足して、「単元ナビゲーション」に取り組んでみようと思った。

受講者の感想

- ・ 個々の先生方の頑張りやつぶやき、知恵をつなぐために、研究便り等で発信していきたい。
- ・ ベクトルを揃えるために、全体で共有すべきことを確認し合っていきたい。
- ・ 単元配列表を教科ごとではなく、どの教科と教科が関連しているのかが分かるように整理してまとめることが必要だと感じた。そうすることで、見えてくるものがあるのではないかなと思う。本校には、教科配列表がある。それを使って教科をつないでいきたい。
- ・ カリキュラム・マネジメントの内容については、まだまだ学ぶべきことが多くあると思う。自分の勤務している学校の特色、研究内容を十分生かした年間計画を作成していくことが大切だと思った。

研修Ⅰ【講義】「子どもたちをとりまく現状と課題 ～人権が尊重される社会をめざして～」 講師：高知新聞社 メディア企画部 塚地 和久 副部長

新たな貧困の時代

- 就学援助率

	【1995年度】	【2012年度】
高知県	10.0%	24.4%
全国	6.1%	15.6%
- 厳しい環境にいる子どもの割合

	【2015年】
高知県	12.4%
全国	8.0%

貧困のほかにも気になる点が…

- 近隣住民の行き来について

	【2000年】	【2007年】
よくしている	13.9%	10.7%
ほとんどしていない	18.4%	30.9%
そんな人はいない	3.9%	7.5%
- 生活面で協力し合う隣人

	【2007年】
0人	65.7%
1～4人	28.0%
5～9人	4.8%

子どもたちの貧困の問題を、いつまで放置しておくのか。



取材のなかで、学校の先生から、人とのつながりの大切さを学んだ。
人とのつながりが少ない現代だからこそ、人どうしを結び付ける「支縁」が重要である。

心に残っている子どもたちの言葉

- 「修学旅行費がほしい」
- 「先月、誕生日やった。身内の誰にも祝ってもらってないけどね」
- 「修学旅行のバイキング料理、ゆっくり食べていい？こんなに食べるの初めて」
- 「もうちょっときれいな家に住みたい。お母さんに言うた。私もバイトしゆうし、2万円ぐらい家賃出すって」
(高知新聞朝刊「子育て支縁」夕刊「話題」より)

困り感への「支縁」

- 貧困
 - ・ 福祉との連携
 - ・ 保護者支縁
- 希薄なつながり
 - ・ 仲間づくり
 - ・ あったかプログラム
- SNS等のトラブル
 - ・ 知識の伝達、日常の会話
- 発達障害
 - ・ ライフスキル、周囲の理解

「支援」から「支縁」へ

人権教育主任の役割…下記の仕事をベースに、子どもたちや保護者の困り感への「支縁」を

- 人権学習の企画
- PTA研修の企画
- 学校の体制整備
- 人権文化づくり
- ・ 地域学習
- ・ 資質向上
- ・ いじめ問題対応
- ・ ○○運動
- ・ 防災学習
- ・ 家庭・地域連携
- ・ 不登校支援
- ・ 掲示物作成

子どもたちの実態に合わせた個別支援が大切

ひとりを支える、それが高知市の教育文化

研修Ⅲ【実践発表】人権教育の実践報告 「教科等における人権教育の推進」について

実践発表① 高知市立第六小学校 篠原 隆一郎 教諭

- 研究テーマ 各教科等と関連を図った地域教材の開発
- 研究方法 市民会館や地域でのインタビュー、フィールドワーク等で情報収集したことをどのようにすれば思いが伝わるかについて話し合い、まとめる。
- 研究成果 人権教育の視点を明確にした地域教材を、各教科等と関連した学習として計画的・継続的に行うことにより地域を誇りに思う気持ちを高めることができた。

実践発表② 高知市立長浜小学校 合野 友成 教諭

- 研究テーマ 自他の人権を尊重する意識・意欲・態度を育む人権学習の在り方
～育てたい資質・能力を明確にした授業実践を通して～
- 研究方法 人権に関する知識理解の深化に焦点を当てた地域教材による人権学習、人権感覚の涵養に焦点を当てた人権学習を行う。
- 研究成果 特定の側面に焦点を当て指導を行えば、人権に関する知識理解の深化と人権感覚の涵養について向上的な変容があることが明らかになった。人権教育を成立させるために、あらゆる側面から総合的に組み合わせた指導を行うことが必要である。

【受講者の感想】

- ・ 子どもたちの幸せを願う塚地さんの気持ちが伝わってきた。私たち教員にできることはたくさんあると思った。
- ・ ひとりを支える、それが高知市の教育文化だと伺い、今までの自分の実践を振り返ってみて、果たしてどこまでできていたかを考えさせられた。
- ・ 子どもたちの実態に合わせて学習をすることで、自尊感情を高める実践が大切であると思った。